

1 取水堰



日野市新井

この取水堰は、砂利積みの導流堤(どうりゅうい)の堰を使って毎秒0.5t取水しています。取水堰はコンクリートで頑丈につくられることが多いですが、コンクリートでつくってしまうと、大雨で増水したとき、ここから上流の水位が上がって危険な状態になるので、浅川を管理している国土交通省京浜河川事務所との調整によって、砂利積みになっています。増水・氾濫時に壊れて流されても仕方ないという考えで、導流堤が壊れたらつくり直します。

5 潤徳小の田んぼ



日野市新井

その田んぼに隣接して、「潤徳小の田んぼ」があります。5年生の水田学習の場で、種まきから脱穀まで児童が関わり、精米は農協などに頼んでいます。収穫した米で餅を搗いたり、地元のパン屋と共同で米粉パンをつくったり。2012年は20kgの袋で6袋収穫しました。

2 向島用水親水路



日野市新井

潤徳小学校裏から南新井交差点までは「向島用水親水路」として整備されています。農林水産省と東京都からの補助金を受け、1992年(平成4)から1995年(平成7)にかけて工事を行いました。潤徳小学校の校庭に連なる水辺にはピオトープ(トンボ池)が設けられ、環境学習の場になっています。水路整備の計画当初、学校の敷地内まで水を引き入れることは、水辺の安全面や防犯面などから懸念の声があったようですが、今や全国的に知られ、多くの見学者が訪れています。池の水深は30cmで、小学校低学年でも安心して水遊びができます。

6 道標



日野市新井

大正天皇即位を機に地元青年団がつくった道標。古道の石田本村から浅川を渡り、落川へ行く道の角にあたり、北側に「万願寺渡船場」、南側に「落川東寺方面」とあります。土方歳三の生家は川向こうにあり、ここを通過して町田や多摩に石田散葉を売りに行ったのではないかとわれています。

3 水車



日野市新井

親水路整備の際に建造された水車。観光地などで見られる水車は、水輪が回るだけのものが多いですが、この水車は小屋の中に杵(きね)も設置されていて、水力だけで米などを搗(つ)くことができます。使える水車なのにもったいないと、2011年(平成23)、日野塾の有志で「日野の水車活用プロジェクト」を立ち上げ、この水車を使った精米実験や勉強会を行なっています。

7 せせらぎ農園



日野市新井

「せせらぎ農園」は、市民グループ「まちの生ごみ活かし隊」が運営しているコミュニティガーデン。約200世帯の生ごみを回収して堆肥にし、無農薬・無化学肥料で野菜や花などを育てています。農園内の用水路は板柵だけの素掘り。以前地主さんがコンクリートにしてほしいと市に申請されたそうですが、生物が棲める水辺にしたいからと、職員が維持管理を手伝うのでそのまま残してほしいと頼んで今に至っています。せせらぎ農園のメンバーも用水守として登録し、用水路の手入れをしています。

4 住宅街の一角にある田んぼ



日野市新井

南新井の交差点を渡ると、このあたりで最も大きな水田が住宅街の一角にあります。20年ほど前に土地の所有者が水田を維持できなくなったのですが、当時の市職員が種まきから田植え、稲刈り、餅搗きまで個人的に手伝って、今も残せています。

8 ワンド



日野市落川

浅川と程久保川の合流点にはワンドが広がっています。程久保川のブロック護岸に土管を入れ、合流点のデルタに水を流しました。市民団体の提案に基づいて2005年(平成17)につくられたものです。当初は生物が5、6種類しかいなかったのですが、10数種類にまで増えました。

9 旧水門



日野市落川

向島用水の排水口のある程久保川は、東京都が管理しています。洪水を安全に流すための河川改修によって掘り下げられ、直線化されていますが、周辺には蛇行した旧河道の名残があり、かつての水門も残っています。



向島用水フィールドワークガイド

長野浩子さん(法政大学 エコ地域デザイン研究所 研究員)、石渡雄士さん(同)、高木秀樹さん(日野市 環境共生部 緑と清流課 水路清流係)の解説のもとにミツカン水の文化センターが作成